

事業所における自己評価結果

公表:令和6年3月11日

事業所名: 大府市発達支援センターおひさま

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び課題や改善すべき点など
①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	12	0	・十分ではあるが、食事スペース、遊びスペースを分けたいときもある。
②	職員の配置数は適切である	10	2	・国の基準よりも多く配置している。 ・毎日、朝礼で職員配置を確認しているが確保できないときがある。クラスでは体制が整わなくてもできるカリキュラムを立てて工夫している。 ・適切ではあると思うが、バスの乗車業務、パート職員の出勤時間などにより現場として厳しい状況もある。 ・職員の欠席がいたときのフォロー体制が弱い。
③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12	0	・限られた空間の中で活動内容やカリキュラムによって空間の構成を工夫している。
④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	12	0	・毎日掃除をしており、大掃除も年に数回行い、清潔を保つよう心掛けている。
⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	0	・毎年、会議で取り組んでいる。
⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	・会議で全体共有し改善に繋げている。
⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	・会議でアンケートの結果内容を共有し、改善に繋げている。また、毎年3月頃に法人のホームページにも掲載している。
⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	12	0	・数年間に1回行っている。
⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	・園内研修を行ったり、園外の研修に参加したりしている。園外研修の場合は参加職員が報告し、共有している。
⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	12	0	・会議で職員全体で共有し、検討した上で作成している。 ・アセスメントシートは目標シートを保護者に記入していただき、子どもの課題を懇談で検討し、計画を作成している。
⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12	0	・その都度見直していく必要がある。 ・アセスメントシートを作成し使用している。 ・もう少し先のアセスメントシートがあっても良いと思う。

⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12	0	・今後さらに内容などについて検討し、よりご利用者に合わせたものを取り入れる必要がある。
---	--	----	---	---

⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	12	0	・日々、意識して行えるよう振り返りの時間に担任間で共有している。
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	・担任間やさらにはセンター長、副センター長に相談したり、チームなって立案したりしている。
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	・様々な内容を取り入れて工夫している。また専門職とも連携して検討している。
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	12	0	・立案したものは職員会議を通して再度話し合いを行い、いろいろな視点で検討している。 ・今後、個別と集団の活動のバランスや環境の調整や取り組み方などを検討する必要がある。
⑰	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	2	・できないときもあるが、支援開始後に伝えるなど工夫をしている。 ・話すことが沢山あって打ち合わせしきれないこともあるが基本的には打ち合わせできている。 ・常勤職員とは子どもの登園前に打ち合わせが行えるがパート職員とは勤務時間の都合で打ち合わせが行えない状況である。 ・フリーで入る職員や専門職と打ち合わせできない場合はメモで伝えて共有している。 ・近日中にはできるように配慮しているが、事前や直後に話し合いができないときもある。
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	11	1	・時期によっては振り返りがしばらくできないときもある。懇談が続いたり、行事や専門職との振り返りがあったりするなど。 ・日々の療育について振り返りを行い、翌日の関わりや支援について検討している。 ・外部との打ち合わせがある場合などには翌日に振り返りを行っている場合もある。
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	・毎日行い、振り返り、支援に活かしている。
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	12	0	・会議で常勤職員で行っている。
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	11	1	・会議が全ての子にあるわけではない。担当者と連携を取り、必要な情報の共有やモニタリングは十分できていると思う。
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	12	0	・大府市役所子ども未来課、幼児教育保育課、保健センター、保育園、小学校などと連携を取っている。

⑳	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			
㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害者のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			
㉒	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0	・引継ぎ資料を作成し、情報共有を行っている。 ・保育所等訪問支援を行っている。
㉓	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	12	0	・引継ぎ資料を作成し、情報共有を行っている。 ・アフターフォローとして卒園後に情報共有を行っている。
㉔	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11	1	・今年度は他の事業所への研修はなかった。 ・今年度は他の児童発達支援センターと交換研修を行った。

㉕	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと交流する機会がある	12	0	・機会は少ないが保育園交流や年長児交流等を取り入れている。 ・移行支援の一環としての交流と年長児交流を行っている。 ・機会はあがるが、移行する子や年長児に限られている。 ・園同士の子どもの行き来はないが、園庭開放の情報など保護者に伝えたり、様子を保護者と共有したりしている。
㉖	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11	1	・決まった職員が出席することが多いため、いろいろな職員が参加できるとよい。 ・センター長が参加している。
㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	・ご家庭での過ごしや姿を教えて頂いている。連絡帳で丁寧に伝えて下さったり、登園時に詳細に話して下さったりする為、共通理解を持っている。
㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	11	1	・プログラムとして意識はしていないが、思考は持っていて、取り組んでいると思われる。 ・保護者講演会、クラス懇談会、センター長と語る会等を行っている。 ・ペアレントトレーニングは行っていないが、家族支援は大切にしてきていると思う。 ・家族支援は行っているが、ペアトレ等の支援は行っていない。 ・ペアトレとしてではなく、親子通園日、親子療育を通して子どもに合わせた関わりを一緒に考えている。 ・保護者講演会を定期的実施し、学びの場としている。
㉙	運営規定、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	・入園前に保護者の方に説明を行っている。

③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	0	・作成時にガイドラインと照らし合わせて行ってはいないが、ガイドラインに沿った内容で作成はしている。
③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	・随時の相談にも応じている。
③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	12	0	・クラス懇談会を行っている。また年2回行っている父子参観日にも父対象のクラス懇談会を行っている。
③⑥	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0	・苦情要望の申出をするシステムがあり、迅速かつ適切な対応を行うよう努めている。
③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	・おひさまだよりなどを月1回発行している。 ・フェイスブック等の情報発信を行っている。
③⑧	個人情報の取り扱いに十分注意している	12	0	・注意をして取り扱っている。
③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	・気持ちに配慮して分かりやすく伝達できるよう工夫している。
④①	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11	1	・行事に地域の方を招待することは現在行っていない。 ・福祉健康フェアに参加している。 ・福祉健康フェアや法人の実践発表を通じ、センターの概要や行っていることなどの発信をしている。
④①	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	12	0	・訓練を行っていないマニュアルもある(感染症)。

④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っている	12	0	・行っているが救出訓練は様々なシチュエーションで行っていくとよいと思う。 ・子どもだけでなく保護者とも行うことで様々な状況に対応できるようにしている。 ・月に1回行っている。
④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	12	0	・今年度は服薬を必要とする対象児がいない。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	・配膳も手順書を掲示して行い、間違えて提供することがないようにしている。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	・申し送りで共有している。 ・事例集はないけれど、事故ヒヤリの分析はできていると思う。

				・終礼で周知している。参加していない場合は終礼の会議録で周知共有している。
④6	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	・今回も研修があった。 ・年1回全職員研修を行っている。
④7	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	12	0	・必要時には支援計画と一緒に説明を行っている。

○この「事業所における自己評価結果」は、児童発達支援センター又は児童発達支援事業所の職員の方に、事業所の自己評価していただくものです。「はい」か「いいえ」のどちらかに「○」を記入するとともに、「工夫している点」「課題や改善すべき点」等について記入して下さい。